



西浮通信

令和3年10月29日
NO. 374
東京都北区立西浮間小学校
校長 小島 みつる

目標に向かって努力し続けることの大切さ ～明るい未来を目指して～

副校長 唐澤 伸郎

2年連続の秋の運動会を明日に控え、各学年が本日最後の練習を実施しました。季節はずれの寒さや冷たい雨に見舞われることもありましたが、子供たちは限られた時間の中で懸命に練習に取り組み、運動することの楽しさや、仲間と協力することの素晴らしさ、そして全力で取り組むことの大切さを味わってきました。明日はその子供たち一人一人が頑張る姿を是非温かい眼差しでご覧いただき、お子さんの成長を感じ取っていただければ幸いです。西浮間小職員一丸となって、全ての児童にとって実りある一日となるよう支えていきます。まだまだ感染症対策や制限ある中での参観となりますが、保護者の皆様のご支援ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



さて、今年はコロナ禍の中、4月からプロ野球やJリーグが始まり、夏には東京オリンピックパラリンピックが行われ、暗くなりがちな世の中を盛り上げてきました。その中でも私は特に、米国メジャーリーグでの大谷翔平選手の活躍に心が踊り、救われた思いがします。二刀流という誰もが成し得ず、しかも多くの専門家に無理だと言われる中、自分の進みたい道に挑戦する姿はそれだけでも勇ましく尊いものです。そして、ホームラン46本に9つの勝利投手さらに26盗塁という今年の成績、世界中の野球ファンのみならず多くの人々の心を掻き立てるものがあつたのではないかと思います。



恵まれた体格と類稀な技術、パワーで浮世離れの感がある大谷選手ではありますが、実はプレーもさることながら、グラウンド内外で見せる人格の素晴らしさに注目すると、我々も見習うべきことがいくつもあることに気付かされます。例えば、大谷選手は試合中にグラウンドでゴミを見つけるとさりげなく拾いポケットにしまうのです。その原点は（ご存知の方もいるかと思いますが）、大谷選手が高校一年の時に作った「目標達成シート」にあります。その中の一部、「人間性」には「礼儀」「感謝」、「メンタル」の欄には「仲間を思いやる心」、そして「運」の欄には「ごみ拾い」「あいさつ」「道具を大切に扱う」「審判への態度」という言葉が並ぶのです。高校時代の恩師の、「ごみを拾うことは落ちている運を拾うことだ」という教えがあつたそうです。学生時代から明確な目標を掲げ、その目標に向かって正しい方向性の努力を今なお積み重ね続けていることが、今につながっているということが分かります。少しでも見習っていくべき正しい生き方と感じます。



11月に入り、今年も早いもので後2ヶ月というところまでやって来ました。世の中漸く明るい兆しが見えてきて、少し動き出してきたのは本当に嬉しいことです。まだ気を引き締めていく必要はありますが、新しい日常生活の中、未来に向かって希望と目標をもち、明るい気持ちで前に進んでいきましょう。